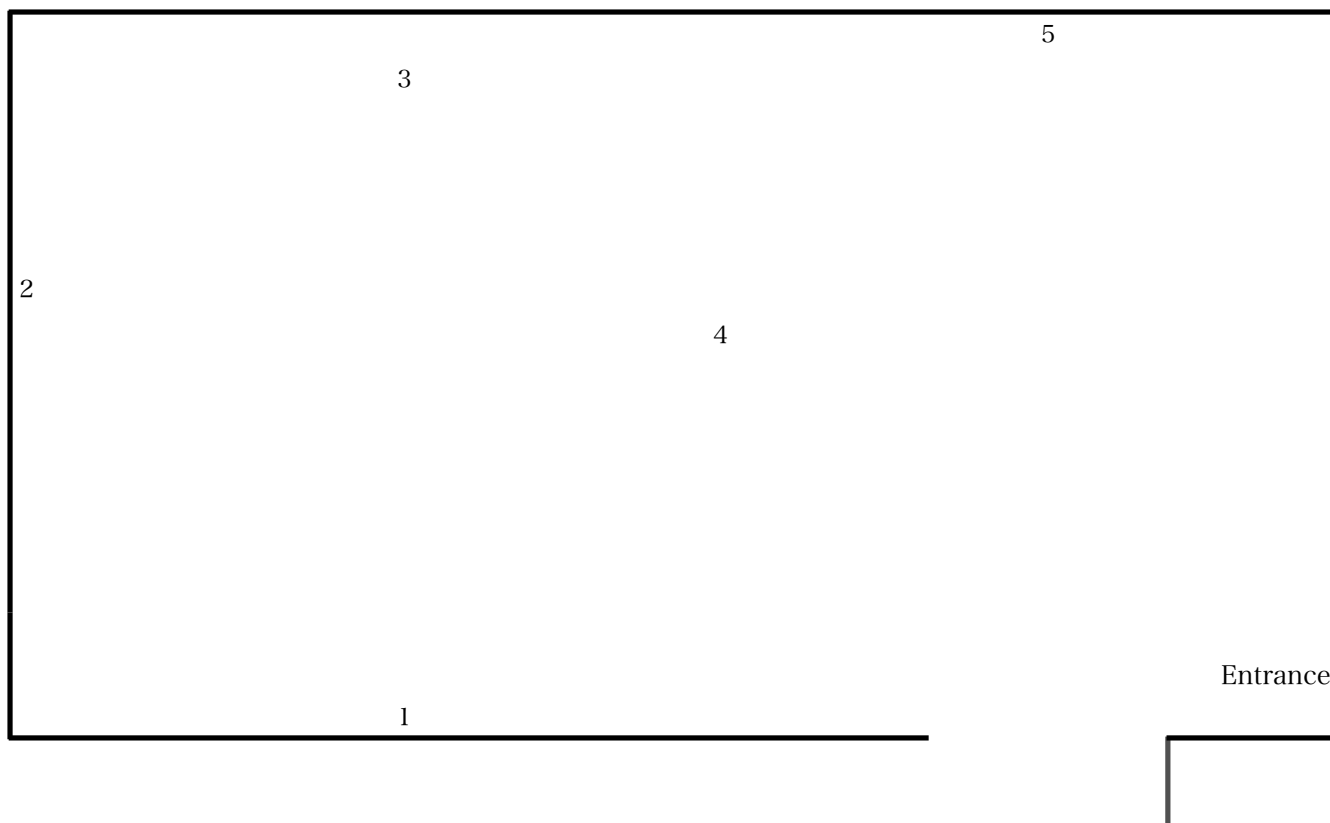


木村桃子展「袋を積む」 2023.06.18(sun) - 07.01(sat)



| No | 作品No | 作品名 | 制作年 | サイズ | 素材/技法 | 価格(税抜) | 価格(税込) |
|----|---------|----------------------------|------|--------------|--------|----------|----------|
| 1 | 2307-01 | Sandbag girl | 2023 | 1240×360×40 | 木 着彩 | ¥300,000 | ¥330,000 |
| 2 | 2307-02 | 立ち上がる身 | 2023 | 可変 | 木 ポリ袋 | ¥200,000 | ¥220,000 |
| 3 | 2307-03 | KoinuIII / Garbage bag dog | 2023 | 280×330×40 | 木 鉛筆 | ¥100,000 | ¥110,000 |
| 4 | 2307-04 | オートリーヴのキャリアード | 2023 | 1120×480×200 | 木 | ¥320,000 | ¥352,000 |
| 5 | 2307-05 | 袋を積む | 2023 | 260×320 | 木 紙 鉛筆 | ¥25,000 | ¥27,500 |



木村桃子 KIMURA momoko

1993 東京都生まれ
2017 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科 卒業
2019 武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程美術専攻彫刻コース 修了
[Official Website](#)

[主な展覧会]

- 2023 「木村桃子-袋を積む-」展 galerieH/東京
「あたらしい場所」展 アートギャラリーミヤウチ/広島
「どこかで」展 広島芸術センター/広島
「出張モノログス#3」展 GASBON METABOLISM/山梨
- 2022 「木村桃子-もれる光のびる線-」展 galerieH/東京
「八色の森の美術展 たおやかなまなざし」 池田記念美術館/新潟
「いとまの方法」展 杉並学園アートプロジェクト 児童養護施設杉並学園/東京
「LIFE LINE」展 gallery face to face/東京
- 2021 「木馬と星」展 WALLA/東京
「八色の森の美術展 語りかけるいろ、目覚めるかたち」 池田記念美術館/新潟
「助教・助手展2021」 武蔵野美術大学美術館/東京
「歪んだ場所」展 武蔵野美術大学 apmg/東京
- 2020 「まあ、新しい生活様式 都市鉱山の調理法」展 early bird project/東京
「八色の森の美術展 かたちになる力」 池田記念美術館/新潟
「Make the knot」展 gallery face to face/東京
- 2019 「木村桃子-Unmasked-」展 galerieH/東京
「CAF賞2019 入選者作品展」 代官山ヒルサイドフォーラム/東京
「でんちゅうストラット 星をとる」 小平市平櫛田中彫刻美術館/東京
「助手展2019 武蔵野美術大学助手研究発表」 武蔵野美術大学美術館/東京
「One Man Show+」展 gallery face to face/東京
「平成30年度 第42回東京五美術大学連合卒業・修了制作」展 国立新美術館/東京
「平成30年度 武蔵野美術大学卒業・修了制作」展 武蔵野美術大学美術館/東京
- 2018 「間隙を縫う」展 横須賀飯島商店/神奈川
「東京2020公認文化オリンピック事業でんちゅうストラット-グッド・バイブレーション-」展
小平市平櫛田中彫刻美術館/東京
「彫刻と対話法IV 揺さぶられる作意」展 府中市美術館市民ギャラリー/東京
- 2017 「MONSTER Exhibition2017」 渋谷ヒカリエ8/court/東京
「東京2020公認文化オリンピック事業でんちゅうストラット」 小平市平櫛田中彫刻美術館/東京
「MONSTER Exhibition in NY」 hpgrp GALLERY NEWYORK/ニューヨーク
「RAMP」 長谷川邸/東京
「平成28年度 第40回 東京五美術大学連合卒業・修了制作」展 国立新美術館/東京
「平成28年度 武蔵野美術大学卒業・修了制作」展 武蔵野美術大学/東京
- 2016 「逸脱展」 武蔵野美術大学/東京
- 2015 「小平アートサイト2015-異彩-」 小平市中央公園/東京
- 2014 「open atelier」 共同アトリエ展示/東京
- 2013 「小平アートサイト2013-会いに来る美術-」 小川町1丁目地域センター/東京

[パブリックアートワーク]

2021 世田谷区玉川総合支所等々力庁舎 桜の木ベンチアートワーク 「水と木のリビング」

[主な受賞]

- 2019 権鎮圭賞
2017 武蔵野美術大学5賞 清水多嘉示賞
MONSTER Exhibition2017 最優秀賞
日本文化藝術財団第22回奨学生



Artist Page_木村桃子
<http://bit.ly/2ZFjwF0>



Online Store_木村桃子
<https://bit.ly/3Sd2utc>

袋を積む

ここ数年は時間について考えながら作品を作っている。
何かを積むという造形行為のなかでも最も単純な方法は蓄積された時間と行為の記録ともいえる。

今年3月に研修という形で海外に行きひたすら観たいものを観にいったのだが、積まれて生まれた造形物とそこにかけられた人間の時間に想いを巡らす。

人生をかけてひとりで作られた石積み之城、突貫で作られたため崩壊する煉瓦積み之城、日々住民が積みあげ高くなるゴミ袋の山

パリに到着した3月8日は年金制度についてのストライキが行われていた。到着早々に駅が封鎖され仕方なく徒歩移動すると街なかでは割られたガラスが散乱し、遠くでは火の手が見えるなど初日の夜はスト行為が激しかったが、以降滞在中に街なかで暴動に遭遇することはなかった。
ただ、最初は気づかなかったが、日に日に街にゴミ袋が増えていった。
ゴミ収集業者のストライキによって街中に設置されているゴミ箱に収まらなくなり、路上に黒いゴミ袋が積まれていった。

帰国後もさらに積み上がるゴミ袋の様子はSNSで拡散され、時間と共に意思や不満が増幅していくことが可視化されているようだ。
現地に行ったら、異臭や鼠など衛生面の問題に直面しそれどころではないだろう。
山積みになされたゴミ袋が放火されたことは帰国して間もなくニュースで知った。

事の発生時に現地で見えたものが、その後は海を隔てた遠い地から匂いも触感も感じられない画面越しに、人々の抗議の産物としてリアルタイムに造形が膨れていく。
幾ばくか生々しさが排除された「積まれていく袋」は時間と共に立ち上がる造形物として魅力を感じ、背景にある諸問題を忘れていることに罪悪感を感じた。

実物(それを取り巻く環境)と画面を通したつるりとした視覚情報との差は「彫刻」を作る時に感じるホンモノへの届かなさを思い起こす。
この届かなさはいつも苦手で、届かせようとする必要がないと思うこともある。
でも、石ころやもたれかかる袋の重みを下から上に表面を辿って彫ることはできた。
遠回りだが、ひとつひとつの具体的な形を積み上げて、行為と時間を積むことは届かなさの一端を埋めるひとつの手段にはなるかもしれない。

2023.6.18 木村桃子